

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

自分たちのプールを、自分たちの手で

昨年度のプール清掃は、高学年の授業時数確保の観点から、2名の保護者ボランティアと数名の教職員で行いました。安全に実施することはできましたが、とても大変で、終わった後に、こんな思いが残りました。

「子どもたちが使うプールなのに、子どもたち自身が関わらなくてよかったのだろうか。」

もちろん、安全面や負担の配慮は必要です。しかし、自分たちが使う場所を、自分たちの手で整える経験には、学力テストの点数だけでは測れない大切な学びがあります。

汚れていた場所が、仲間と力を合わせることで少しずつきれいになっていくこと。

「誰かがやってくれる」のではなく、「自分も支える一人になる」こと。

そして、普段当たり前に使っている場所の裏側には、多くの人があること。



それは、ESDで大切にしている「つながり」や「責任」、「協働」の学びそのものだと考えました。



今年は、5月28日(木)に、5、6年生と7名の保護者ボランティアの皆さんと一緒に、プール清掃を実施しました。さらに、PTA会長さんの発案で、地域の消防団「新井方面隊第9分団」の皆さんも協力してくださいました。

豪快に、消防車からホースを伸ばして放水する姿。消防団のユニフォーム姿で地域を守るために動く大人の姿を身近に感じて、子どもたちは、きっと**かっこよさ**だけではなく、「**地域を支えるってこういうことなんだ**」という空気も感じ取っていたと思います。

近年、消防団員の減少が課題となっています。今回の取組には、消防団の皆さんにとっての広報や入団PRという意味もありました。しかし、それ以上に、地域の大人と子どもが同じ場で汗を流したことに、大きな価値がありました。

清掃後に、みんなで記念写真を撮りました。きれいになったプールを前にした子どもたちの表情は、とても誇らしげでした。



さらに、消防団の皆さんのご厚意で、子どもたちは実際に放水体験もさせていただきました。勢いよく伸びる水に歓声を上げながら、地域を守る仕事の力強さや責任の重さを、体で感じる時間となりました。

学校だけでもない。家庭だけでもない。地域だけでもない。

みんなで子どもたちを育み、みんなで地域を支えていく。

そんな「共育」の姿が、今年のプール清掃にはありました。

プール開きの日、子どもたちはきっと、去年までとは少し違う気持ちで水面を見ることでしょう。



PTA執行部を中心に、プール清掃前の打合せ。有難うございます!